

家庭教育学級新聞

第22号 H29.2.20

発行 山武市教育委員会
生涯学習課



冷たい風の中でも陽だまりにはタンポポのつぼみが顔を出し始めました。今年度の家庭教育学級も役員の皆様はじめ参加協力をいただいた会員の方々のおかげをもちましてほぼ終了となりました。家庭教育学級を通して保護者間の輪が広がれば、互いに気軽に話ができるようになり、ひいては子どもたちにとってもよい人間関係に結びついていくように思います。次年度もよろしくお願い申し上げます。

ちょっぴり緊張



おいしくな～れ
おいしくな～れ

1月18日(水) むつみのおか幼稚園では「親子茶道教室」が開かれました。今回はお茶を飲むだけではなく、「お運び」や茶筌でお茶をたてる体験を通して、日本文化の「礼儀」や「おもてなしの心」にも触れました。お母さんたちも互いにお茶をたてるところからの体験をし「茶道のおもてなしの心に触れてよかった、相手を想う心を大切にしたい子育てができればいい」「お話も面白く、貴重な体験ができ楽しく参加できた」などの感想が聞かれました。地域講師の皆さんの温かいご協力に感謝です。



子どもの金銭教育

2月8日(水) 日向小学校



子ども達にお小遣いはいつからあげればいいの？いくらぐらい？「こどもの金銭教育」では、お互いの家庭でのお小遣いをどうしているか話し合い、お小遣いの意味を考えました。今は電子マネーやスマホなどでの見えないお金もあります。財布とお小遣い帳と貯金箱は必須アイテム。お小遣いを通して計画的にお金を使う体験は、自立のための第一歩。決められたお金の中でやりくりし足らなくなったら我慢させる、貯金の習慣も大事と確認しました。皆さんの家ではどうでしょうか。

- ◇他の家ではどうしているのかな？と思っていたので、今回参加していろいろと話を伺えてよかったです。おこづかいも「必要なもの」「欲しいもの」を区別すると教えていただいたので、ルールを決めて行ってみようと考えています。
- ◇普段あまり話題にすることがない内容だったので、いい勉強になりました。うちは厳しい方かと思っていましたが、結構皆さんと変わらない感じもあったので安心しました。
- ◇おこづかいをいつから始めたらいいのか、金額の相場、貯金の仕方など目からうろこの情報をたくさん聞けてとてもためになりました。

リレーコラム

我が家の子育て

大富小学校教頭 中村 公美

希望や夢をもち成長していくお子さんを育てるステキなご家庭をたくさん見て、学ぶ機会も多くありました。しかし、自分自身の子育てを振り返ると・・・「悔い」と「感謝」の気持ちが湧いてきました。

共働き、しかも仕事優先の両親をもった一人っ子の我が子、気づくともう高校卒業の年を迎えていました。休みの日には外出して楽しい思いをさせたり、必要なものがある時にはちよつと奮発して良いものを買うことで心を満たそうと考えていた私達ですが、それはとんでもない見当違いであったのではないかと思えます。たぶん息子が求めていたことは、そんな派手なことではなく、日常的に一緒に過ごすささやかな時間の積み重ねであったのではないのでしょうか。

小学校低学年のある日、部屋の窓際におもちやのオペラグラスが置いてありました。お隣が大変近い場所にあるため、「いやだ、こんなもので外を見てて。」と、少し困惑してしまいました。何を見ているか尋ねると「車が着いたらこれで見ると、パパやママが近くに見えるから」とのこと。「・・・！」胸がぐつと締め付けられ、目頭が熱くなっていました。

寂しさに気づき、つらい思いをしないように、幼いながらにいろいろと自分を守る方法をとってきたのだと思います。満たされない気持ちを家族や友達、物にあたることもなく、自分なりに深く考え心にブレーキをかけていたのでしょう。そのためか、同年代のお子さん比べて、感情表現が希薄な気がします。本人に言うところ「これで普通だよ。」と言いますが、嫌なことをされても感情的にならずに聞き流したり、面白い時や楽しい場面でも大声で笑ったりしません。良く言えば穏やかで優しい子なのでしょうが。

もつといろいろな習い事や体験をさせ、自分の好みや得意分野を見つけられるようにしてあげられなかったこと。自分の気持ちを抑えてしまうような環境で育ててしまったこと。悔いが残ってやみません。

そんな未熟な親達の代わりをしてくれたのが両親と義母。親がすべき仕事のすべてを担ってくれていました・・・いや、今もでしょうか。感謝の気持ちでいっぱいです。親の分まで心配し、手を貸し、80代も後半になろうという年齢になっても、何よりも孫優先の生活をずっと続けてくれているのです。面と向かつてはなかなか言えませんが、いつも心の中では言っています。「ありがとうございます」と。

そんな私ですが、一つだけ自己満足していることがあります。それは弁当作りです。中学校の部活動の練習試合の時は、どこまででも届けました。高校3年間、宿泊行事で留守をした日以外は、何種類かのおかずを必ず作りました。毎日「どうだった、お弁当。」と聞くと、「うん、うまかった。」の一言で、どんなに疲れていても、睡眠時間が少なくても「よし、明日も早く起きて頑張ろう。」と力をもらいました。まあ、砂糖と塩を入れ間違えた厚焼き玉子、時間内に食べきれないほどの量、箸の入れ忘れ等、後で知った失敗もいくつかはありましたが。もちろん息子はその時は文句も言わず、ある時ボソッとこんな時があったよと言ったものです。そう考えたら、実は息子に励まされていたのは私だったと気づきました。

息子が成人してどのような道を、人生を歩んでいくか先はまだ見えませんが、「健康」そして、「よき人々との多くの出会い」を願っています。両親・義母とともに息子にも感謝です。

私にはやり残しだらけのたった一度の「我が子の子育て」です。でも、「我が家の子育て」としたならば、父・母・義母の協力の下、順調に進行中ではないでしょうか。そして、我が家を支えてくださっているすべての方々にも感謝の気持ちでいっぱいです。